



# 2005年度 教育行財政学

2006.1.17

学校の管理と経営 改革と理論(6)

担当: 勝野正章

# 講義の内容

- 10. 新自由主義教育改革・学校改革
  - 10-1. ケース 東京の高校改革
  - 10-2. 教育特区 教育の規制緩和と多様化
  - 10-3. 「新自由主義」学校改革の特徴
- 11. 効果のある学校
  - 11-1. 効果のある学校とは？
  - 11-2. 「効果のある学校」の定義
  - 11-3. 「効果のある学校」の特徴
  - 11-4. 「効果のある学校」研究に対する批判
  - 11-5. 「特色ある学校」か「効果のある学校」か

# 10-1. ケース 東京の高校改革

- 都立高校のスクラップ・アンド・ビルド

全日制都立高校208校→180校(68校スクラップ、40校ビルド)

定時制課程103校→55校(63校スクラップ、15校ビルド)

- 「新しいタイプの高校」

進学指導重点校、チャレンジスクール、エンカレッジスクール、  
進学型商業高校、科学技術高校

「都立高校改革推進計画」

「実施計画」(97年、99年)「新たな実施計画」(02年)

## 10-2. 教育特区 教育の規制緩和と多様化

- 構造改革特別区域法(02.12)

規制緩和(「官から民へ」)

「地方自治体のイニシアチブに基づく、地方分権の本格的な推進」

- 「教育特区」の例

小学校における英語教育

小中一貫校

学習指導要領にとらわれない教育課程編成

教員免許を有さない教師の採用

株式会社、NPO法人による学校の設置・運営

# 10-3. 「新自由主義」学校改革の特徴

- 公教育の縮小と教育サービスの民営化
- 公教育内部の格差化・階層化
- 学校間競争原理の導入
- 教育委員会-学校関係
- 「官僚的統制」から「評価による統制」へ変化
- 学校内部でのトップダウンの強化
- 一般教員層への業績主義・成果主義の導入
- 民間型経営手法(NPM)の導入

=「新自由主義」  
教育改革・  
学校改革

進藤兵「東京都の新自由主義教育改革とその背景」

堀尾輝久・小島喜孝編著『地域における新自由主義教育改革』(エイデル研究所、2004年) より

# 11-1. 効果のある学校とは？ (1)

( )内は順位

|    | 父大卒<br>(%)   | 文化的階<br>層(%) | 通塾(%)        | 国語平均<br>(点)  | 標準偏差 | 算数平均<br>(点)  | 標準偏差 | 対象者数 |
|----|--------------|--------------|--------------|--------------|------|--------------|------|------|
| D小 | 48.6<br>(1)  | 54.5<br>(1)  | 36.0<br>(7)  | 74.7<br>(4)  | 13.6 | 65.9<br>(8)  | 17.9 | 72   |
| E小 | 25.0<br>(7)  | 38.0<br>(5)  | 13.9<br>(14) | 79.9<br>(1)  | 12.8 | 80.1<br>(1)  | 9.8  | 76   |
| F小 | 24.2<br>(8)  | 33.3<br>(7)  | 30.8<br>(8)  | 67.7<br>(8)  | 16.5 | 66.2<br>(7)  | 21.6 | 69   |
| G小 | 20.0<br>(12) | 22.4<br>(14) | 17.0<br>(12) | 63.2<br>(12) | 23.7 | 48.4<br>(14) | 24.8 | 61   |
| 全体 | 29.0         | 33.1         | 29.4         |              |      |              |      | 921  |

東大「関西調査」志水宏吉『学力を育てる』(岩波新書、2005年)69ページ 表2-6

# 11-1. 効果のある学校とは？(2)

(点)

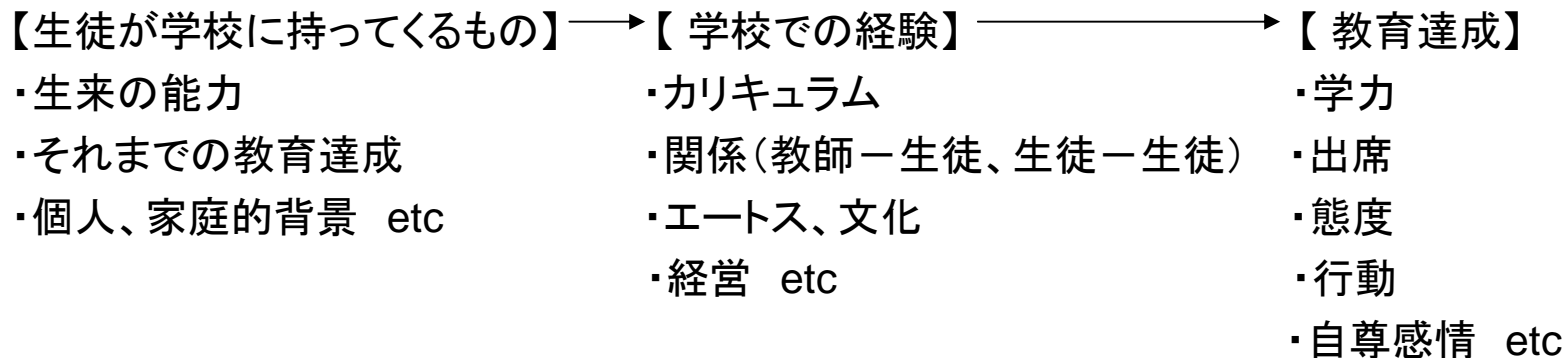
|    | 全体   | 父大卒  |      | 文化的階層 |      |      | 通塾   |      |
|----|------|------|------|-------|------|------|------|------|
|    |      | 大卒   | 非大卒  | 上位    | 中位   | 下位   | 通塾   | 非通塾  |
| D小 | 67.0 | 69.3 | 65.6 | 68.9  | 66.6 | 56.5 | 69.3 | 65.6 |
| E小 | 80.9 | 81.3 | 78.6 | 82.7  | 82.3 | 77.0 | 85.7 | 80.1 |
| F小 | 67.0 | 77.5 | 70.8 | 71.0  | 72.3 | 67.2 | 71.9 | 66.2 |
| G小 | 47.4 | 51.3 | 47.9 | 52.1  | 41.2 | 51.3 | 60.8 | 48.4 |

東大「関西調査」志水宏吉『学力を育てる』(岩波新書、2005年)125ページ 表4-1

# 11-2. 「効果のある学校」の定義

## ● 「人種や階層的背景による学力格差を克服している学校」

(鍋島祥郎『効果のある学校』解放出版社、2003年、17ページ)





## 11-3. 「効果のある学校」の特徴(1)

E小における基礎学力保障システム

- わからない時にわからないと言える学習集団づくり
- 授業と家庭学習との有機的なリンク
- 弾力的な指導体制と多様な授業形態
- 学力実態の綿密な把握
- 学習内容の定着をはかる補充学習
- 動機づけをはかる総合学習の推進

志水宏吉『学力を育てる』(岩波新書、2005年)

## 11-3. 「効果のある学校」の特徴(2)

- 校長のリーダーシップ
- ビジョンと目標の共有
- 学習を促進する学校環境
- 教授と学習への専心
- 目的意識に富んだ教授方法
- 子どもたちへの高い期待
- 積極的な評価
- 学習の進歩のモニタリング
- 子どもたちの権利と責任の尊重
- 家庭との良好な関係

# 11-4. 「効果のある学校」研究への批判

- 政治的／哲学的視点から

政府の行政責任の免罪符

managerialism、数値目標、厳格なアカウンタビリティシステムを擁護・推進する結果

- 方法論的視点から

量的研究への偏り、相関関係？ 因果関係？

- 理論的視点から

インプット－アウトプットモデルの問題、常識の提示？

# 11-5. 「特色ある学校」か「効果のある学校」か

【教育制度】

● 分権化

● 市場化

● 規制緩和

【学校経営管理】

リーダーシップ

NMP

Managerialism

【学校改革】

「特色ある学校」

「効果のある学校」